

環境学委員会 環境思想・環境教育分科会  
環境教育の思想的アプローチ検討小委員会（第25期・第6回）  
議事要旨

日時：2023年4月18日（火）9:00～11:00

会場：オンライン会議

参加者（敬称略・五十音順）：清野未恵子，重藤さわ子，高田知紀，豊田光世，二宮咲子

オブザーバー：井上真理子，河野哲也，氷見山幸夫

欠席：蟹江憲史，黒田一雄，永井三枝子，野田真里

\*委員9名中5名の出席により会議は成立した。

議題：

1. 清野委員の報告

清野委員より、「負の地域資源を循環する社会の形成と知の関係」というテーマで報告があった。人間とヒトという概念の捉え直しから始まり、生態系の多層性の理解，そこから獣害という社会課題へのアプローチへと議論が展開した。兵庫県丹波篠山市での獣害対策の試み「さる×はた合戦」を通して、運営体制が地域主体に変遷していくプロセスや、参加者の多様化，余った柿の処理（利活用）の変遷など，多面的かつ具体的な報告があった。

意見交換では、「悪いもの／良いもの」というよりただ「やっかいなもの」という位置に据え置かれたまま，プラス／マイナスの価値を往還する環境との関係性についての共通の理解が確認された。また“制御できなさ感”と「科学的に管理すべき」という2つの方向性に対応する環境教育の思想と実践として一見相反する「ヒト化していく」「人間化していく」ことが往還しながら進んでいくことを議論した。このことは「ローカリティ」と「グローバル」の交錯にもつながる視座であることを確認した。

2. 公開シンポジウムの開催について

「ニンゲン学的環境教育の提案」というテーマで公開シンポジウムを企画し，本小委員会で蓄積した議論の発信を行うことについて，豊田委員より提案があった。7月～9月にシンポジウムを開催することを目指すことで同意した。

3. 今後の活動

シンポジウムの開催要領はメールを通して詳細を検討する。シンポジウム開催前に準備のための小委員会を開催する。

以上